

令和2年度 学校評価書

延岡市立港小学校

I 学校教育目標

確かな学力、豊かな心、健康な体をもつ港っ子の育成
～一人一人のよさを最大限に発揮できる～

II 学校経営ビジョン

職員が一丸となり、「一人一人」のよさや可能性を伸ばす指導・支援に取り組み、家庭・地域と連携した教育を推進することを通して、信頼され愛される学校を目指す。

III ビジョン達成のための重点目標

「一人一人のよさと可能性（夢）、礼儀正しさ（心）、地域のよさ（誇）」

- 1 確かな学力の定着
- 2 豊かな心の育成
- 3 健康な体づくり
- 4 学校・家庭・地域が一体となって取り組む教育活動の推進
- 5 安心安全な学校づくり
- 6 働き方改善による教育の質の向上

IV 目標達成のための実践事項と評価計画（5段階評価、%は「はい」「だいたい」と答えた割合）

目標	実践事項と評価項目・数値目標	結果	自己評価	考察・分析、改善策	学校評価	学校関係者コメント
確かな学力の向上	1 わかる授業・考える授業 ① 主題研究による複式授業の充実 ② 個々の実態把握と個に応じた指導の充実 ・学力検査・市 CRT 検査等 全国・県・市の平均（個人得点＋5点） ・保護者や児童の授業満足度 … 90%以上 《学力調査結果》 《学校教育：児童1、職員1、保護者8、地域6》	（授業満足度） （分かりやすい授業） 児童 100% 職員 100% 保護者 100% 地域 65%	4	・複式学級における学習指導の在り方（算数科の効果的な学習指導法）について研修を重ね、学力向上に努めることができた。 ・県や全国の学力調査の問題に取り組み、速く読み取る力や自分の考えを書くことに力点を入れた指導を行うことができた。また、授業においては、習熟の時間を十分に確保したり、タブレットを活用したりと、わかる授業・考える授業に取り組むことができた。 ・CRTでは、職員全体で分析を行い、課題と手立てについてまとめた。基礎的・基本的な内容の定着について、指導の継続が必要である。	4	・授業参観をしてみても、鉛筆の持ち方の悪い児童がいるので、学校で指導してほしい。 ・ひらがなの書き順が正しくない児童もいるので、筆順も徹底してほしい。
	2 基本的な学習規律の徹底 ① 学習姿勢の指導 ・学習姿勢の定着率90%以上 ② 家庭学習の充実 ・家庭学習の実施率90%以上 《日常観察》 《学校教育：児童2・3、職員2》 《家庭教育：保護者10》	（姿勢） 定着率 児童 72% 職員 83% （家庭学習） 児童 76% 保護者 82%	3	・学習姿勢については、「腰骨くん」を机に設置し、常に意識できるようにしたことで姿勢の改善につながった。 ・家庭学習の定着については、放課後教室と家庭で行う学習を明確に取り組み合わせた。生活リズムとの関連が大きいため、今後も、家庭への啓発・連携を図りたい。	3	・鉛筆の持ち方や食事のマナーは家庭でやるべきではないか。家庭でできる教育と学校でできる教育をきちんと整理した方がよい。

確かな学力の向上	3 メソッドタイム及びスキルタイムの充実 ① 集中力の向上 ② 児童の意欲の持続化を図るための工夫 《陰山メソッドテスト》10月実施	(メソッドテスト) 音読暗唱 95% 百マス計算 64% 全漢字 62%	3	・朝の時間に音読・百マス計算を取り入れたことで授業への入りが集中できるようになった。音読暗唱は95%と高いが、百マス計算3分以内64%、全漢字練習62%と学年や個人によって差がある。着実に基礎的な計算・漢字力が定着してきているので、次年度も効果的な指導の徹底を図りたい。	3	
	4 学習環境の整備充実 ① 読書活動の推進（図書館環境の整備） ・年間読書量 低（200冊）中（100冊） 高（80冊） ② 作品の積極的応募 ・作品展への応募（入選、紙面掲載）20点以上 ③ 教室環境の整備 《学校教育：児童4、職員4》 《家庭教育：保護者11》	(読書習慣) 児童 64% 職員 40% 保護者 53%	3	・年間読書量の目標達成に向け、ふくろう号を有効活用したり、新館コーナーをつくる等、図書館の環境整備を行ったことを通して、児童の読書量を増やしていきたい。 ・各学級で積極的に様々な作品募集へ応募したことにより、多くの児童が入賞することができ、児童の自信となった。	3	
豊かな心の育成	1 基本的な生活習慣の定着 ① あいさつの指導 ・地域でも進んであいさつができる80%以上 ② 整理整頓の指導 ・くつ、ぞうきん、かさがいつも整っている90%以上 ③ 静の場（清掃時・移動時・自習時・給食片付け時、全校集合時の無言）の徹底 ・静の場で無言が守られている100% ④ 学校のきまりの意識付け 《日常観察》 《学校教育・児童5・6・7 職員10・6・7、保護者17、地域9》	(あいさつ) 児童 92% 職員 85% 保護者 100% 地域 96% (整理整頓) 児童 100% 職員 85% (静の場) 児童 88% 職員 57%	3	・あいさつについては、声が小さく、自分から進んでできていない時もある。いつでも進んで元気のよいあいさつができるように具体的な場面を想定しての挨拶の仕方を指導していくことが必要である。 ・無言の場は、以前よりはよくなってきているが、できない場合もあり、無言で行うための継続的な指導が必要である。	3	・全体的に発表の音が小さかったり、反応が薄かったりと自分の考えをはっきり伝えることが苦手な児童が多いと感じる。音読や声を出すような遊び、山を駆け上がるような遊びなどを取り入れて、元気でリーダー性のある児童を育ててほしい。
	2 思いやりの心づくり・望ましい人間関係づくり ① 人権教育の推進 ② 特別支援教育の推進 ③ 異学年交流の推進（朝のボランティア、昼遊びの遊び） ・困っている人を助けたい、人に親切にしたいと思っている100% ・学校に行くのを楽しみにしている100% 《日常観察》《学校教育：児童8・9、職員8・9、保護者22》	(親切) 児童 92% 職員 100% (楽しみ) 児童 96% 職員 100% 保護者 100%	4	・委員会や給食当番、学校行事等において、上級生を中心に助け合ったり教え合ったりすることができる。教育相談等を充実させ、児童の困り感や悩みを解決することで、学校に行くことが楽しみになるようによりよい人間関係づくりに努めていきたい。	4	
	3 キャリア教育の推進 ① 行事等での礼節指導の充実 ・場に応じた礼儀をもって行動することができる90%以上 ② 日本文化の伝承・体験（放課後子ども教室との連携） ③ 「見る知る感動する体験する」場の設定 ・自分の夢や目標をもっている90%以上 《学校教育：児童10：11、職員10》	(礼儀) 児童 100% 職員 85% (夢をもつ) 児童 52%	3	・放課後子ども教室では、貴重な日本文化の体験（日本舞踊・茶道）をすることができ、正しい礼儀作法を教わることができた。 ・「子どもたちに伝えたいこと」やクリーンセンターや造園業の方の話を聞いて、様々な仕事の特徴ややりがいを知る機会となった。	3	

豊かな心の育成	<p>4 明るい環境づくり</p> <p>① 花いっぱい ② 歌声響く ③ 絵が映える（計画的な児童作品掲示と鑑賞） ④ ゴミゼロ ・常時子どもの作品が大切に掲示されている100% ・ゴミが一つも落ちていない100%</p> <p>《日常指導》 《学校教育：児童12、職員11、保護者5》</p>	(ゴミゼロ) 児童 83% 職員 83% 保護者 94%	3	<p>・プランターや花壇の整備、教室や廊下等の掲示物の定期的な張り替えなど計画的に行うことができた。</p> <p>・少人数による清掃で行き届いていない場所があるので、朝のボランティア活動など時間を見つけて率先して行う等、これからもゴミゼロの意識を高めたい。</p>	3
健康な体づくり	<p>1 体力づくりの推進</p> <p>① 体力向上プランの共通実践 ② パワーアップタイムの充実 ③ 外遊びの推進 ・新体力テストで、個人到達目標達成100%</p> <p>《体力テスト未実施》 《学校教育：児童13、職員12、保護者20》</p>	(体力) 児童 92% 職員 50% 保護者 88%	3	<p>・行事と関連付けながら、パワーアップタイム(持久走・なわとび)を実施してきたが、体育の授業での活動の制限や昼休みなどの遊びの時間の減少により、例年よりも体力向上を図ることができなかった。</p> <p>・昨年度の体力テストの個人到達目標をクリアできるように方策を考えていく必要がある。</p>	3
	<p>2 生活リズムの確立</p> <p>① 「早寝・早起き・朝ごはん・朝快便」の推進 ・早寝・早起き・朝ごはんや、テレビ・ゲームの視聴時間等、規則正しい生活が身に付いている。80%</p> <p>② アウトメディアの推進 ・アウトメディアに取り組む家庭90%以上</p> <p>《生活リズムチェック》《日常観察》 《学校教育：児童14・15・16、家庭教育：保護者13》</p>	(早寝・早起き) 児童 100% (朝ごはん) 児童 100% (テレビ・ゲーム) 児童 96% (生活リズム) 保護者 100%	4	<p>・早寝・早起き・朝ごはんについては、大半の児童ができてはいるが、登校前の集合時刻に間に合わない児童もいるので、声かけを行っている。</p> <p>・家庭生活において、ゲーム等を長時間行っていたり、友達と通信してゲームをしたりしている児童もおり、児童だけでなく、保護者への啓発も図りたい。</p>	3
	<p>3 食育指導の推進</p> <p>① 給食指導の充実 ・好き嫌いをしないで、食べることができる90%以上</p> <p>② 食事のマナーの向上 ・食事のマナーを守って食べることができる100%</p> <p>《日常観察》《学校教育：児童17・18）</p>	(好き嫌い) 児童 100% (マナー) 児童 80%	4	<p>・好き嫌いがある児童がいるものの、全員が完食を目指し、頑張って食べる姿が見られる。また、ほとんどの児童が時間内に食べ終えることができてはいる。</p> <p>・箸の持ち方や食べる姿勢など今後も指導が必要である。コロナ対策として取り組んできた結果、食べながらしゃべらないが守れるようになった。</p>	4
	<p>4 家庭への啓発</p> <p>① 学校保健委員会の充実 ② 家庭の健康への意識向上(歯の健康) ・むし歯治療率90%以上</p> <p>《むし歯治療率》</p>	治療率 (R1) 74% (R2) 55.6%	2	<p>・学校保健委員会は未実施 ・むし歯治療率は55%と目標達成には至っていない。むし歯に対する家庭の意識の差が大きく、今後も保護者への啓発を行っていききたい。</p>	2
安心安全な学校づくり	<p>1 命を大切にする教育活動の充実</p> <p>① 交通安全指導の徹底 ② 避難訓練の計画的実施 ・交通のきまりを守り、けがや事故に遭わないように気をつけている100%</p> <p>《学校教育：児童19、職員13、保護者18、地域10）</p>	(交通安全) 児童 100% 職員 100% 保護者 100% 地域 100%	5	<p>・交通教室は実施できなかったが、地区児童会での交通安全の確認を定期的に行った。それぞれの班が交通の決まりを守り安全に登下校できた。</p> <p>・非常時の避難訓練は計画通り実施できた。本年度は、スクールサポーターと連携を図り、不審者対応訓練を実施することができた。</p>	5

安心安全な学校づくり	<p>2 いじめのない学校づくり</p> <p>① いじめについて考える場の設定 ② 教育相談の充実 ・いじめのない学級づくりに取り組んでいる 100% 《学校教育；児童 20・21、職員 14・15、保護者 10、15》</p>	<p>(いじめ) 児童 96% 職員 100% 保護者 83% (教育相談) 児童 100% 職員 100% 保護者 88%</p>	<p>3</p> <p>・全職員が連携しながら、小さなトラブルの段階で解決できるように、常に危機意識をもって対応した。児童のみならず、保護者との面談も実施するなどいじめ防止に努めた。 ・月1回の教育相談のアンケートを実施し、それをもとに、児童の様子について共通理解してきた。</p>	<p>3</p>
	<p>3 危機管理意識をもった施設管理や諸対応</p> <p>① 活用できる危機管理マニュアルの整備 ② 定期的、日常的な安全点検 ・危機管理マニュアル、防災マニュアルの見直し、改善 100% 《危機管理マニュアル》</p>		<p>3</p> <p>・コロナ対策に関するマニュアルを新しく追加し、学校としての対応の仕方や職員の役割について共通理解することがした。 ・避難訓練の提案・実施を通して、危機管理マニュアルの共通理解を図った。危機管理マニュアル、防災マニュアルは見直しを行うことはできたが、常時活用できるマニュアルの整備が必要である。</p>	<p>3</p> <p>・学校の樹木等の伐採や剪定については事前に地域への説明がほしい。</p>
	<p>4 確実な情報共有</p> <p>① 報告、連絡、相談の徹底 ② 保護者との連携 ・常時、保護者と何らかの連絡をとっている 100% 《学校教育：児童 22、職員 16、保護者 13》 《家庭教育：保護者 1・7》</p>	<p>(保護者との連携) 児童 84% 職員 100% 保護者 100% 保護者 100% 保護者 88%</p>	<p>4</p> <p>・学校便りや学級通信連絡メール、職員玄関掲示物、ホームページ等を通して、常に情報提供を行った。 ・連絡帳や電話、家庭訪問等での連絡を適宜行い、保護者との情報共有を行っている。</p>	<p>3</p> <p>・コロナ感染状況など学校の情報をもっと地区(区長)に伝えてほしい。どんな状況なのかが分からないので不安である。</p>
学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進	<p>1 地域の人材・素材を生かした教育活動の推進</p> <p>① 教育環境をいかした取組の充実(梅林、野外教室、夢の冒険小屋、地域人材、学校行事、学校支援ボランティア) ② 土曜授業での取組の充実 ・地区と連携した行事や地区の行事に積極的に参加している 100% ・学校支援ボランティアとの連携による教育活動を展開している 100% 《学校教育：児童 23、職員 17、地域 5》 《家庭教育・保護者 3・6》</p>	<p>(参加) 児童 1% 職員 20% 保護者 88% 94% 地域 84%</p>	<p>3</p> <p>・梅林の保全活動や調べ学習を通して、梅林を守っていこうとする態度を育てることができた。 ・学校支援ボランティアの方々との交流活動はできなかったが、改めて地域の方々の協力に感謝する気持ちを持つことができた。 ・夢の冒険小屋はお別れ遠足で活用する予定である。冒険小屋への通路が崩壊しているところもあり、整備が必要である。</p>	<p>3</p> <p>・地域の高齢化が進み、学校への協力体制も希薄化してきているが、PTA も元気を出して頑張っていってほしい。 ・学校が起点となって地域とともに港小校区を盛り上げてほしい。</p>
	<p>2 ふるさと教育の推進</p> <p>① 地域文化の伝承、体験活動の取組 ② 「子どもたちに伝えたいこと」の取組(公民館登校・港わんぱく太鼓・子どもたちに伝えたいこと) ・延岡や港小学校を好きである 100% 《学校教育：児童 24》</p>	<p>(郷土愛) 児童 100%</p>	<p>4</p> <p>・わくわく遊び、公民館登校については、実施できなかった。 ・運動会や学習発表会において、雲海太鼓の平野さんの指導のことができた。来年度は、児童数が減るので低学年から取り組む必要がある。</p>	<p>4</p>
	<p>3 幼保小中連携教育の充実</p> <p>① 東海地区学力向上プロジェクト内容の取組 ② 川島小交流学习の充実 ③ 幼保小による会議の充実 ・プロジェクト会議の重点取組事項の達成 90% 《PJ会議反省》</p>		<p>2</p> <p>・東海地区学力向上プロジェクト会議及び川島小との交流学习、幼保小連携会議とすべて中止となった。本年度実施できなかった分、来年度の連携協力がうまくいくように事前に計画を立てておく必要がある。</p>	<p>2</p>

